

## 2017年度 相談支援センターふーぷ (HOOP) 事業報告

久永結香

2016年度に引き続き、「相談者（本人）の思いや権利」に注目し支援を行った。面談では、障害のある人自身が、頑張っている事、楽しい事、困っている事など自分の思いをそれぞれの方法で話し、これからの生活と目標設定も、本人自身が決められるようになって来ている。やはり、本人が主体的に思いを表現できた時には、支援の方向性も決まりやすく、家族と関係者も納得して支援できると感じている。そういったケースを増やしていけるよう、今後も、言葉での表現が難しい相談者に対して、どのようにすれば少しでも意思確認ができるか、個々に合わせて考え、努力していきたい。

平成29年度より、相談員が増えたことにより、業務量が緩和され、より丁寧な相談が実施できた。本人と家族だけでなく、直接支援に関わる支援者との情報共有と意見交換により、双方での支援の質を高める事が出来た。

相談内容では、相談者（本人）の年齢が高くなり、健康面の話と将来の自立生活についての相談が多くなっている。健康面に関しては医療との連携の必要性が増え、特に女性利用者の婦人科受診が増えている。分かりにくく、デリケートな問題であるからこそ、本人と家族と支援者が集まった場で検討する事で受診に繋がりやすい。その他には、てんかん発作に関する事や精神科との連携が主である。どちらも、家庭だけでなくサービス利用時の様子を情報共有する事で、より良い医療に繋がっていると感じる。将来の自立生活については、SSやGHの利用を希望される方が多いが、社会資源は未だ追いついていない状況である。また、少人数で手厚い支援のある短期入所の事業所も少ない事に変わらない。その他、少数ではあるが、自分のペースで勉強を教えて欲しい、趣味の合う友達や恋人が欲しいという声もある。今ある福祉サービスでは担いきれないところであるが、そういった声を大切に、地域課題については自立支援協議会へ報告した。

平成30年3月末時点の、契約者数は、成人77名、児童7名。各月ごとの相談件数は下表の通りである。平成28年度に比べると契約者数は、3名減少しているが、モニタリング期間が1～3ヶ月毎の相談者が増え、相談件数としては18件増加している。

4月	19件	10月	19件
5月	18件	11月	19件
6月	18件	12月	15件
7月	21件	1月	21件
8月	20件	2月	18件
9月	28件	3月	23件

合計239件

以上